

〈展示室A〉 Gallery A

★の作品は当館蔵

▼ 3.23 Sat. - 6.16 Sun.

近美コレクション The Museum Collection

越境者パスキン

Jules Pascin: Crossing Boundaries

ブルガリアに生まれ、ルーマニアで育ち、ウィーン、ブダペスト、ミュンヘンで学び、パリに移住したジュール・パスキン(1885-1930)。異国の地に自由を求め、貧しい者や社会の周縁に生きる者への共感を持って描いたエコール・ド・パリの画家の世界を巡ります。



ジュール・パスキン《放蕩息子》1922年★

現代ガラスのオノマトペ

Onomatopoeia in Contemporary Glass



塩谷直美《風の予感》2001年★

ガラスの多彩な表現は、わたしたちに様々なイメージを呼び起こします。「ゆらゆら」「くねくね」といったオノマトペ(擬音語、擬態語)をキーワードに、創造性豊かな現代ガラスの世界を探ります。

この1点を見てほしい。

Enjoy One Special Piece

山口蓬春《向日葵》1955年 ※展示期間: 5.12まで。

新収蔵品展

New Acquisitions ※会期: 5.18-6.16



片岡球子《面構 一休さま》2000年★

片岡球子「面構」シリーズ

The "Countenance" Series by Kataoka Tamako

昨年度、新たに収蔵した「面構」作品などを紹介します。

浮世絵のヒロインたち 組物・続き物から生まれるストーリー

Ukiyo-e Heroines: Stories Told in Sets of Ukiyo-e Prints

歌川国貞、国芳、溪斎英泉が描いた、複数枚からなる「組物」や数枚をつなぎ合わせて大きな画面を形づくる「続き絵」の美人画により、それぞれの画面の関連性から生みだされる広がりストーリーの世界を3期に分けてご紹介します。 ※会期中、展示替えします。



歌川国貞《深川新地 月下の三美人》★ ※展示期間: 7.9-8.4

岩橋英遠《道産子追憶之巻》

IWAHASHI Eien "Hokkaido Reminiscence"

ウイズ・キッズ'24 なぜこのかたちなの?

With Kids'24: Why This Shape?

子どもが大人を連れて来たくなるような美術館を目指して、新たな企画「ウイズ・キッズ」を始めます。テーマは「なぜこのかたちなの?」。ガラスの箱や不思議なカップをご紹介します。

アートギャラリー北海道 港の今昔

Art Gallery Hokkaido: The Past and Present of Tomakomai Port From the Tomakomai City Museum Collection

道内各地の特色ある美術館を紹介する「アートギャラリー北海道」事業として開催する本展では、街の発展とともに姿を変えてきた港の歴史をテーマに、苫小牧市美術館のコレクションをご紹介します。



坂東史樹《小さくて深い空》(部分) 2019年、苫小牧市蔵

▼ 10.12 Sat. - 12.8 Sun.

近美コレクション The Museum Collection

ウイズ・キッズ'24 みる・ふれる・つたえる さいきょうのざいりょう

With Kids'24: Look, Touch, Convey—My Best Materials

私たちがふだん何気なく接している石や木、糸、布なども、工夫しだいで美術作品の「さいきょうのざいりょう」になります。作品をみて、ふれて、身近な素材に秘められた可能性を発見していく展覧会です。

温かいガラスへ 岩田藤七の軌跡

Aiming at Glass with Warmth The Achievements of Iwata Toshichi

岩田藤七(1893-1980)は、豊かな色彩や大胆な形を特色とする作品により、日本のガラスを実用品から芸術の域に高めました。また、茶道や華道の世界にガラスの道具を広めました。その多彩な仕事をご覧ください。



岩田藤七《花器》1966年頃★



狭須高徳《薪炭屋》1954年★ ©ADAGP, Paris&JASPAR, Tokyo, 2004 X0229

この1点を見てほしい。

Enjoy One Special Piece

〈展示室A,B〉 Gallery A,B

▼ 2025 1.5 Sun. - 3.16 Sun. 特別展 Special Exhibition

星の瞬間 アーティストとミュージアムが読み直す、Hokkaido

The Moment of a Star Hokkaido Reexamined by Artists and Curators

現代アーティストと学芸員それぞれがピックアップした当館の「北海道の美術」コレクション、アーティストの自作、学芸員によるコレクション研究の成果を一堂に展示します。北海道美術史を複眼的に読み直す試み。企画協力はCAI現代芸術研究所/CAI03。

主催: 北海道立近代美術館



瑞穂《液体は熱エネルギーにより気体となり、冷えて液体に戻る。そうあるべきだ》2017年、作家蔵 ※参考作品

変貌する20世紀 ヨーロッパ・ガラス プロダクトへ、アートへ

The Transformation of Twentieth-Century European Glass From Product to Art

20世紀のヨーロッパでは、生活を美しく演出するガラス製品(プロダクト)が大量に生産されました。作家性が高いガラス作品が盛んに発表されるようになったのも20世紀のことです。ヨーロッパ・ガラスの変わりゆく潮流をご覧ください。



スタニスラフ・リベンスキー/ヤロスラヴァ・プリフトヴァ《接触》1985年★

〈展示室B〉 Gallery B

▼ 4.20 Sat. - 6.2 Sun. 特別展 Special Exhibition

「琳派×アニメ」展

尾形光琳、神坂雪佳から鉄腕アトム、リラックマ、初音ミクまで Rinpax Anime—From Ogata Korin and Kamisaka Sekka to Astro Boy, Rilakkuma, and Hatsune Miku

「琳派」という語は、尾形光琳の琳からとって付けられました。本展は、琳派作品とアニメ、マンガという一見異なるジャンルの作品を取り扱う展覧会です。写された琳派作品の中に登場するキャラクターが醸し出す独特の世界をお楽しみください。



主催: STV札幌テレビ放送

尾形光琳《富士三壺図屏風》 右隻 江戸時代中期 個人蔵

▼ 7.9 Tue. - 9.1 Sun. 特別展 Special Exhibition

国宝「鳥獣戯画」北海道初公開 京都 高山寺展 明恵上人と文化財の伝承

Kosan-ji, Kyoto—Saint Myoe and the Temple's Cultural Properties

京都・高山寺の中興開祖、明恵上人の生涯とその教えを辿りつつ、同寺が伝承してきた国宝《鳥獣戯画》などが、優れた絵画や彫刻、工芸、典籍文書等により、現代まで続く高山寺の歩みをご紹介します。



左: 国宝《鳥獣戯画》(甲巻第17, 18紙部分) 12世紀 高山寺蔵 ※展示期間: 7.17-28 右: 国宝《明恵上人像(樹上坐禅像)》(部分) 13世紀 高山寺蔵 ※展示期間: 8.6-9.1

▼ 9.21 Sat. - 10.27 Sun. 特別展 Special Exhibition

皇居三の丸尚蔵館展(仮称) 皇室の至宝 北海道ゆかりの名品

Cherished Treasures from the Museum of the Imperial Collections. Sannomaru Shozokan Masterpieces Related to Hokkaido

皇居三の丸尚蔵館は、代々皇室に受け継がれてきた美術工芸品を収蔵しています。その中から、北海道と京都・江戸とのつながりを示す近世の名品や、北海道行幸啓にまつわる作品、北海道ゆかりの作家の作品など、皇室と北海道をつなぐ優品を一堂にご紹介します。

主催: 北海道立近代美術館、テレビ北海道、皇居三の丸尚蔵館 ※会期や出品作品については変更になる場合があります。 国宝 伊藤若冲《動植綵絵 紫陽花双鶏図》18世紀 皇居三の丸尚蔵館蔵

▼ 12.5 Thu. - 15 Sun.

北海道書道連盟創立70周年記念展 Hokkaido Calligraphy Federation 70th Anniversary Exhibition 主催: 北海道書道連盟

Calendar grid for 2024 (April to December) and 2025 (January to March). Days are marked with numbers and symbols indicating closed days (●) or special exhibition days (○).

●印: 休館日 closed ○印: 〈展示室A〉近美コレクション展は展示替えのため観覧いただけません。特別展のみの開館となります。